

「新総合事業についての市との意見交換会」アンケート集計結果

日時 平成28年3月14日 19:30~20:15

参加者人数	参加事業者数	回収枚数
18	17	8

1. 本日の意見交換会は参考になりましたか？

とても参考になった	参考になった	参考にならなかった	どちらとも言えない	合計
0	6	1	1	8

- いろいろな考えが聞けて良かったです。
- 市の姿勢が判った

2. 新総合事業に対して、理解が深まりましたか？

良く理解できた	理解できた	理解できなかった	どちらとも言えない	合計
0	5	2	1	8

- 1月・2月の時よりは少し理解できました。(間違った理解をしていた事が判り

3. 市との調整に向けて、疑問点・ご要望・ご意見等をお願いいたします。

- 総合事業が始まった場合、各市区町村ごとに決める事が出来るようになるはずなので、鎌倉市は、鎌倉市独自（近隣の市に足並みを合わせることなく）対応をして欲しい。特に鎌倉市には、他市とは異なる生活支援サポーターの運営方法、A・B・その他なのか不明ですが）鎌倉市の訪問介護の事業運営は他市より厳しく、Aの緩和されたサービスも他市と同じでは、事業者もヘルパーも存続が難しくなると思います。
- 小田原市の事を例に出して下さいましたが、あのタイミングで話された事で市の意向（考え）が見えた気がします。今後、本当に私たちと市は歩み寄る気があるのか？
- ヘルパーの現状は何もわかっていないと思った。
小田原の例はがっかりでした。私たちの市への依存が高いとで言いたげで、これからも市が人材育成をしてくれない事が判った。
- 総合事業は何も決定していないのですね。
- 訪問型サービスAについて、利益が無く引き受ける事業所が無かったら、それはそれでいいというような発言があったが、その部分を引き受けなければその後へ続く仕事がなくなり、事業所としては利益がなくとも、引き受けざるを得ない事を見越して言っているのが垣間見え、大変卑怯に感じました。介護職の状況の改善が必要といいながら、これでは、正反対の状況になってしまう。

- 訪問型サービスAのヘルパー養成の研修を自分達で行う事も考えてみるよう、話もあり、それもいい案だしそうできれば一番良いが実情を知らなさすぎると感じた。
- 訪問介護のヘルパーの人材不足のなか、どうやってヘルパーさんを集める事ができるのか、いつも悩んでいます。安定した介護報酬が労働と釣り合いがとれていないなか総合事業に参加して、事業者は忙しいだけではないでしょうか？もうちょっと鎌倉市の訪問介護事業者の現状を把握してからすすめて欲しい。
- 市からの報告は、毎回内容が異なるので、混乱します。研修の持ち方については、市の担当者が小田原の例を挙げ、事業所で責任を持って検討するべきというような言い方をされましたが、訪問介護の実情と行政に協力をお願いせざるを得ない現状をもっと勉強して欲しい。利用者の体調で収入に変動があり、常勤を雇いづらい事業所の現状、少ない常勤者（市内約20%程）の過重労働の実態。迫りくる鎌倉の高齢化（率）30%。現実に立ち向かうには、地域で協働でヘルパーを育成していくという時に、行政の非協力的な姿勢に不安を感じました。（今後良い介護が提供していかれるのか）
- どういわれても、訪問事業Aとボランティア・サポーターの線引きが、実務の上で判りにくい。やはり全体と一緒に話し合う場ができるとういのは？
- サポーターが900円+交通費なり、訪問Aで今までの予防より、下がる分を利用者負担を上げる等して執行署の収入を確保していただきたい。これは行政が言い出していただかないと進みにくい。
- 事業者連絡会に運営予算を付けて欲しい。
訪問介護Aに参入し、ヘルパーさん育成・獲得にしても小さな事業所が一社のみで活動するには、限界があります。以前と比べ介護保険単価が下がり続けている現在では、福祉関係の事業者でも今後、他業種の企業と同様、経営努力が必要となってきています。地域における横の繋がりを密にし、知恵と力を合わせていく事が必須になります。せっかく鎌倉市には各事業者連絡会が機能しているので、育成の為に研修やイベントをする為の予算がつかないのでしょうか。又地域ごとに訪問介護Aの事業者のオペレーター又はコーディネーターが包括と連携して情報提供等していく事で、ご利用者も選択の幅が広がり、より詳細に活動内容が把握できていけるのではないかと思います。そのコーディネーターの事務費等があると活動しやすくなるのではないのでしょうか？
- 現在受け持っている利用者様は訪問型Aとして引き続きサービスを提供していく気持ちはありますが、新規での予防の方々を受けて行けるかどうかは、鎌倉市の料金設定によって変化するかと思います。
国の方針として、事業者側が受け入れ不可になりその結果利用抑制になっていく。本当に必要な方にサービスが提供できるのか、切り捨てられる高齢者はおられないか、とても不安になります。
- 29.4月に向けて、市が検討している事をもう少し具体的に示して頂ければと思います。
 - 緩和した基準のサービスを実施するのか？
 - 住民主体の支援をどう作っていくのか？
 等について今、どのような検討をしていて、いつ結論を出す事を目標にしているのか？又結論前に今回のような機会があるのか等・・・。

4. その他、どのような事でもよいので、本日のご感想をお願いいたします。

- 今回参加された事業者は特に、Aを受ける事を前提に話をされている事、切実な問題がある事を感じながら質問されている事が判りました。
- 市の方々は普段から、私たちのサービス提供(事業運営)を軽く考えているように感じ取れました。
- 鎌倉市としても、事業所が苦しく立ち行かなくなったら困ると思うが、市の裁量で、事業所の収入が減らないような加算等考えて欲しい。
- 訪問型Aについては、時間もはっきり決めて欲しい。1回につき45分以内等、予防訪問介護のサービスとは明らかにサービスの質も時間も違うという事をはっきり、明確に示して欲しい。
- 行政も事業所も厳しい現状に立たされているのは同じだと思いますが、地域単位で問題を共に解決していこうという時に、お互いが協力し合う姿勢がなければ、解決どころか、大変な事態になってしまいます。早期に対策に取り組まなければ、手遅れ(事業所の閉鎖等)になってしまいます。国も色々な施策を出しているのに、いろいろな試みをして欲しいし、行政はもっと現場の声に耳を傾けて欲しい。
- 世話人会が出した、サ責の大変さ手当の要求は、全くおかしい。訪問介護事業所レベルが問われません。
- 小田原の例の研修(自社内部で行う)は具体的にどんなものか。訪問の同行研修を多く、他を軽くできるなら事によってできるかと思う。
- 事業所が生き残る事がまず大前提ですが、今回の話し合いでとても不思議だったのが、利用者の事が置いてけぼりのような感じを受けました。
高齢者がお元気で過ごせる地域になって欲しいと切に願い、今後の事業所運営も今一度利用者の生き生きとした生活が送れる手助けになるサービスは何かを考えていきたいと思いました。
その事がヘルパーという仕事のモチベーションを維持し、ヘルパーが離職する事を防ぐのではないかと。
- 地域と事業者との交流ができると、非常時・災害時に連携がしやすくなります。
困難ケースのみでなく、地域の事を話あうなどの地域ケア会議を開催して行く事で、事業所と地域が顔の見える関係になり、非常時や災害時に連携が取れやすくなる事で、お一人暮らしの方等の安心感につながる事になればよいと思います。
- 「訪問介護事業者からの意見のまとめ」について、2/23の意見交換会をとりまとめたものだと思いますが、新総合事業についての訪問介護事業者の意見と、市に提示された事に、事業者の一人として疑問を感じました。